

南あわじ市 平成 19 年度 事務事業評価シート 新規 継続
(事業 委託 補助用)

I 基本事項

整理番号 1387

事業名	カブトムシグランプリ		予算科目	会計	一般会計・1
担当部課名	教育部	生涯学習文化振興課		款	教育費・10款
電話	0799 - 37 - 3020			項	社会教育費・5項
事業分類	<input type="checkbox"/> 義務的(法定)事務	法的根拠 (法令、条例、要綱等)		目	青少年教育費・9目
	<input checked="" type="checkbox"/> 任意的(自治)事務				
南あわじ市総合計画 施策体系	まちづくりの柱	人づくり 知恵あふれ 郷土愛が満ちるまちづくり			
	まちづくりの目標	情熱と生きる喜びあふれるまち【生きがい】			
	施策目標	子ども達や市民の遊び・憩いの場を充実する			
該当する事業について「 」を選択			施策的事業	業務委託	負担金補助

II Plan (計画、事業内容、事業背景)

事業概要	目的	<p>対象(誰を・どのような状況の人に)</p> <p>市内・市外不問 夏休みに南あわじ市に集える環境づくり</p> <p>対象人数(人) 1,000</p> <p>意図(どのような状態になってもらいたいのか、事業を実施する「本来の目的」を記入)</p> <p>子ども達の凶悪な事件が後を経たない今日、この大会を通して親子のふれあいと異世代間の交流を行うことにより、心豊かに命を大切にする精神を育もうと考えている。また、外国からの生き物の輸入自由化により、日本の自然界の生態系が崩れる問題も併せて考えて行く。</p> <p>【趣旨】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 親子での夏の思い出をつくろう。 2. 生き物の生命を大切に、楽しくふれあおう。 3. 南あわじ市の地域の活性化をはかろう。
	実施内容	<p>(何をどのような手段・内容・手順により目的を達成させるのか)</p> <p>南あわじ市のホームページと過去のブログとリンクし、幅広く全国配信する。また、昨年同様、新聞広告や読売テレビNHKを通じて、メディア配信も行い周知する。市内の児童には、チラシを配布し参加を募集する。募集人員 約300名。各ブックによりトーナメント制を実施。事前に審判ボランティアを募集し、一月前に審判講習会を行う。</p> <p>ルール説明</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大会は8ブロックに分かれ、トーナメント方式で行います。 2. ブロックの2チームが決勝トーナメントに進みます。 3. 予選は3本勝負(3分まで)とし、2本先取した方が勝ちとします。引き分けの場合は1分の延長、それでも勝負がつかない場合は審判の判定になります。 4. ベスト16以降は3本勝負(6分まで)で2本先取した方が勝ちとします。引き分けの場合は延長1分とする。 5. 両者のカブトムシが、逃げて組み合わない場合はカウント10秒後にとりなおす。ただし主審の判断により副審がもどすことができます。 6. 判定は主審1名副審2名の計3名で行います。 7. 土俵は丸太です。カブトムシを丸太にのせた時点で、主審の判断以外は触れることができません。 8. 土俵については、一般的に丸太の上部になりますが、審判の判断よりカブトムシが側面を戦いの場とした際は、床に先についた方が負けとなります。 9. 外野からのやじや保護者からの申し出は、一切受け付けません。なお注意を促しても申し出る場合は、失格となります。 10. アリーナに入場できるのは、子ども達と大会役員のみです。保護者の方は2階での観戦になります。
	背景	<p>(どのような現状・課題・要望によって事業が実施されるに至ったか、他の自治体の動向など)</p> <p>規制緩和によりカブトムシ等の外国産の輸入が解禁になったことなどにより、子どもたちの回りで、カブトムシやクワガタムシの人气が非常に高まった。また、近年青少年の関係する凶悪犯罪が後をたたないのは、テレビゲームなどの普及により、生命の尊さが失われてきたためと感じる。その中で、生き物を通して生命の大切さを知り、ひいては親子のふれあいと夏休みの思い出になる大会を実施するに至った。ブームに乗り市内の子どもたちと市外の子どもたちのふれあいを深め、南あわじ市の知名度をアップさせる狙いがある。</p>
	事業実施主体	<input checked="" type="checkbox"/> 市直営 <input type="checkbox"/> 民間・その他 (子どもの居場所づくり)
	事業期間	<input type="checkbox"/> 平成 17 年度 ~ 平成 年度 <input checked="" type="checkbox"/> 設定なし
合併前における事業実施団体と合併時における事務調整経緯	<input type="checkbox"/> 旧緑町 <input type="checkbox"/> 旧西淡町 <input type="checkbox"/> 旧三原町 <input type="checkbox"/> 旧南淡町 <input type="checkbox"/> 旧広域事務組合 <input checked="" type="checkbox"/> 新市から	

Ⅲ Do (事業活動・成果、投入資源・コスト)

「実施内容」により得られる活動結果指標 (アウトプット)	指標名	大会への参加人数			指標単位
		人			
	指標説明 (指標算出方法等)	参加人数(親子)及び保育園等も			
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値	-	100	100	100
	実績値	-	80	85	
達成度 (%)	-	80.0	85.0	-	
目標値設定の考え方	参加者と引率の保護者も入れて考える。保育園の遊び場も設置。				
アウトプットにより達成される「目的」に対する事業の成果指標 (アウトカム)	指標名	こころ豊かな青少年の育成と郷土愛			指標単位
		人			
	指標説明 (指標算出方法等)	目に見える数値目標は無いが、市内の児童の犯罪件数の減少や将来的人口流出の減少。			
		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	目標値	-	100	100	100
	実績値	-	85	87	
達成度 (%)	-	85.0	87.0	0.0	
目標値設定の考え方	この事業により、生命の尊さを知り、郷土への愛着心と自然愛の向上				
資源配分 (インプット)		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度
	直接事業費 (千円)	0	203	372	324
	報償費		50	50	45
	需要費		153	264	224
	役務費			58	55
	財源 (千円)				
	国				
	県				
	起債				
	その他				
	一般財源[A]	0	203	372	324
	人件費(正規職員)[B] (千円)	0	0	0	0
	平均人件費(1日当り)	30.7	29.9	30.1	30.1
	事業量1(事業に要した日数)				
	事業量2(事業に要した人数)				
年間経費([A]+[B])	0	203	372	324	
「目的」対象人数1人当り経費 (千円)	0.0	0.2	0.4	0.3	
受益者人数(80)1人当り経費(千円)	0.0	2.5	4.7	4.1	
経費に関する補足説明					

IV Check (事業の自己評価・一次評価)

	単位	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	
達成度	活動結果指標目標達成度	%	-	80.0	85.0	-
	(アウトプットの達成度分析、問題点・課題などを記入。) 17年度は、新規事業であり、当初予算はゼロであったが、青少年事業とタイアップして、市内の児童のみで開催した。18年度は予算措置し、市外・島外からも幅広く参加があった。特に親子連れでの参加であり、500名を超える方が、大会で楽しんでいただけた。また、テレビ局での放映が功を奏した。南あわじ市大会も全国に定着してきた。市内の自然の豊かさを知り、環境問題にも発展できる可能性を残している。					自己評価 (5点) 4
有効性	成果指標目標達成度	%	-	85.0	87.0	-
	成果向上率	%	-	#VALUE!	2.4	-
	(事業実施による目的に対しての有効性分析、問題点・課題などを記入。) 子どもたちが簡単に参加でき、簡単にふれあえる機会が持てる事業である。何より、親子の一体感とカブトムシを育てることが子ども達にとって大きなことである。また、南あわじ市の知名度も大きく上がった。					自己評価 (5点) 4
効率性	活動実績1単位当り経費	千円	#VALUE!	2.5	4.4	-
	効率性増減率	%	-	100.0	72.5	-
	(効率性・コストの分析、問題点・課題などを記入。) 短期間且つ大規模事業で、子どもたちの心に深く浸透する。単発であるが話題性に富み、宣伝効果は群を抜く。時代にあった事業展開も必要であるが、自然が豊かな南あわじ市の良さを出せた。					自己評価 (5点) 4
必要性	公共性の高低	<input type="checkbox"/> 高	<input checked="" type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低		
	(公共性、市民ニーズ、緊急性などを分析、問題点・課題などを記入。) 子どもたちは次年度の大会に向けて卵を産ませ、成虫まで育てて大会に参加するという、1年間のスパンで目指している。人気も高まり、知名度も高まり、今後、市の名物になるであろう。					自己評価 (5点) 4
総合評価	自己評価をふまえた現状分析 2年目の大会で非常に大きな成果がでた。参加人数よりも島外・市外の参加者と問い合わせが多かった。開催日程はどうしてもスポーツ大会等と重なることを考慮に入れなければならないが、現状ではカブトムシの最盛期とボランティアが動ける日曜日に開催するのが妥当である。今大会は、ワールドカップの加地選手のおかげで南あわじ市の知名度がグーンと上昇したのをきっかけに、マスメディアとの接近もできたことが大きかった。このメディアのおかげで大会も大きくローズアップできた。青少年の健全育成と南あわじ市の観光PRにおいて、相乗効果があったと思われる。また19年度は、わんぱく塾との連携を図り、質の向上にも努めた。大会参加までに幼虫から育てる分野も組み入れ、子どもたちの発達分野で大きく関与できた。					<p>評価グラフ</p>

V Action&Plan (改善の内容及び次年度以降の計画)

	平成20年度にできる改善・改革	平成21年度以降にできる中期的な改善・改革
今後の方向性とその理由	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し	<input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 休止・廃止 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input checked="" type="checkbox"/> 予算充実 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 手法見直し
	<p>一年間を通して、国民が動くことが多いのはやはり夏休み期間ではなかろうか。子どもが動くことにより、親も動く。夏季期間は当然、南あわじ市の宿泊施設はほぼ満杯状態であると考えられるが、実際は、大規模宿泊施設だけではなかろうかと懸念する。観光関係と連携し、観光施設の集客アップとカブトムシの大会以後の参加者の導線も考えて行くことが今後必要になる。生涯学習文化振興課の1事業にとらわれないで、他課との連携を行う。</p>	<p>平成20年度は試験的に慶野松原花火大会にあわせて開催を予定しているため、今後、開催には市のイベントと共催することにより相乗効果を確認したい。</p>
(現状維持以外の改善方法)	<p>この事業の開催日が大きなネックである。非常に過密な夏休みの青少年行事、スポーツ・文化等、日曜日にすればほぼ子どもたちは集まらない状況である。平成20年度は試験的に慶野松原花火大会にあわせて開催を予定している。まず低学年や幼児へ参加者の幅を増やすことも考えられる。</p>	<p>市の他のイベントと共催する。</p>
改善によって期待される効果	<p>効果(アウトカム)面</p> <p>南あわじ市大会に参加することにより、島外の参加者には何らかの経済効果があるのでは無いか。また、市内の児童にとっては、郷土への愛着心が生まれる。特に、観光産業との連携により、幅広い展開が生まれる。まずは、南あわじ市に人を呼ぶことが一番である。その中から出会いや経済効果が生まれる。</p>	<p>効果(アウトカム)面</p> <p>市の大きなイベントとの開催は、慶野松原花火大会か福良海上花火大会のどちらかと共催することが望ましい。しかし、カブトムシの季節を考えると慶野は少し早くて福良は若干遅い感があるが、20年度は慶野松原で、21年度は福良で開催し、その結果等を考慮していく予定である。いずれにせよ祭りを盛り上げるイベントとして計画されるものであるため、市外からの集客力も増えるものと推察される。</p>
	<p>コスト面</p> <p>18年度は、文化体育館での開催により使用料が15万円かかり、また、トロフィー等も地場産業の瓦での作成によりコストは上がったが、南あわじ市らしさを出せたので良かった。19年度は、賀集体育館で開催し、使用料面のコストダウンができた。</p>	<p>コスト面</p> <p>祭りの中のイベントで開催するので、祭り予算から何か人的か物的か金銭的分野で助けて頂けるものはないか模索する。</p>
(現状維持の場合も記入)	<p>仮に事業を中止、統廃合した場合に予測される影響(プラス面、マイナス面)</p> <p>市民まつりのサブ会場イベントが今、もっとも適切で無いと思われる。市の名物は存続し、またさらに飛躍することが望ましい。育てて摘むより、育てて花を咲かせ種を取る手段を今後考えていく。</p>	